

講義名	研究演習 (経)		
講義コード	12219	授業形態	
担当教員	村上 友章	開講期・曜日・時限	後期 月曜日 2時限
		オンライン・コード	SEM250

学部・学科	演習分野
全学部	村上友章ゼミ(政治学)

概要説明

【目的】
この研究演習の目的は、国際政治や日本政治を歴史から学びます。みなさんが中学・高校の教科書で学んだ歴史は、日々進化する研究によって少しずつ塗り替えられています。そうした最先端の研究に学び、自らも、一次史料(機密解除された外交文書等)や人々の証言記録を丹念に読み込み、歴史の知られざる真相を解明していきます。その作業を通して、激動する国際政治や日本政治の未来を展望しましょう。

【内容】
まずは良質で分かりやすいテキストを読み込むことで国際政治・日本政治の歴史理解を深めます。その上で、自らのテーマを設定し、ゼミ内でのディスカッション、フィールドワーク(公文書館や事件の現場での調査)もふまえて、卒業論文を完成させます。

【意義】以上の過程を経ることで、「豊かな社会の実現に貢献できる意欲と能力を持ったビジネスパーソン」(本学教育目標)へと成長することができるでしょう。

研究演習(2年後期)
国際政治史・日本政治史の最新テキストを2冊以上輪読し、ディスカッションを行います。
この過程を通じ、このゼミが自分に合わないと思ったら、3年次に別のゼミに移籍して下さい。

研究演習(3年次)
3年生前期では、自分の興味のあるテーマに沿って「新書」を2冊読み進めていきます。その内容や感想をゼミ内でディスカッションし、そこでの議論を踏まえて、学期末に「書評」(1,000字~1,200字)を書いていただきます。その「書評」は10月に開催予定の「学生書評コンテスト」に応募します。
3年生後期では、4年次の卒業論文の原型となるレポート(5,000字程度)を作成して頂きます。各自のテーマを様々な調査を通じて掘り上げていきます。

卒業演習(4年次)
3年次で仕上げたレポートをベースにして、卒業論文(2万字以上)の完成を目指します。

主な卒業論文のタイトル

自分の興味のあるテーマを政治・国際問題に結び付けて調査し、論じてもらいます。

- ・ 明石競輪場の廃止になるまでの約11年間の歴史
- ・ 在日クルド人問題の向き合い方について
- ・ 姫路城がなぜ残ったか
- ・ 板倉勝静の大政奉還後の行動とその意図
- ・ 学校給食の実態状況から見た戦後復興
- ・ 新結合論：イノベーションが奪うものを与えるもの
- ・ 「民社党」と現代政治・受け継がれるべき遺志はどこへ など

教員からの要望

- ・ このゼミは演習時間をやや超過したり、それ以外の時間帯(たとえば夏休み・春休み)に作業を行うこともあります。授業時間内だけでゼミを終らせて欲しい人は選択しないでください。
- ・ 当然ながら遅刻や無断欠席は禁止です。授業冒頭の出欠チェックは厳しくのぞみます。
- ・ このゼミでは本をたくさん読みます。難しい本でもチャレンジしようと思っっている人は大歓迎です。本を読むことが苦手な人でも読み方を少しずつ教えますから安心ください。ただし、そもそも本を読む気がない人は長続きしません。
- ・ このゼミではグループワークを行います。各自の個性に見合ったリーダーシップを発揮して下さい。決して他のゼミ生の迷惑とならないようにしてください。

選考方法

以下の3点から総合的に判断します。
個別ガイダンスへの参加
成績
自己紹介書類(文章量・記述の内容)
*必要に応じて面接も行います。

評価方法
以下の割合で評価します。 ゼミへの積極的参加(プレゼンテーションの内容、活発な質疑応答など)・・・50% 提出物(各種学期レポート、授業ごとのレポートなど)・・・50%

到達目標・成果物

<到達目標>
・ 政治学・国際政治学の知見を使って、国際社会や日本政治の事象を自ら分析できるようになる。
・ 読み応えのある本の読解に挑戦し、政治や外交の歴史を学ぶ楽しさを知りつつ、語彙力豊かに説得力を持って自らの意見を他者に伝えられるようになる。
<成果物>
・ 発表用のレジュメを成果物として、到達目標達成度を評価します。
・ 発表用のレジュメは、発表の有無に関わらず履修者全員に毎回準備してもらいます。毎回のゼミ開始時刻までにレジュメのファイルをキャンパスクロス経由で提出してもらいます。
【参考】
研究演習の成果物は、基本的には研究演習と同様のものとなります。
研究演習の成果物は、1万字程度のレポートを想定しています。

教員英字氏名	研究室
Murakami Tonoaki	研究棟 2706

最終学歴

神戸大学大学院国際協力研究科博士後期課程修了

学位

博士(政治学)

主な研究活動・社会活動・研究業績

【主な研究活動】
・ 「戦後日本と国連平和維持活動」に関する政治外交・安全保障研究
・ 「高橋達之助」に関する個人研究
・ 「自衛隊の災害派遣の史的展開」に関する政治・安全保障研究

【主な社会活動】
・ 公益財団法人 ひょうご震災記念21世紀研究機構研究会委員
・ 公益財団法人 日本国際問題研究所 平成27年度外務省外交・安全保障調査研究事業費補助金(発展型総合事業)「安全保障政策のリアリティ・チェック 新安保法制・ガイドラインと朝鮮半島・中東情勢」研究会委員

【主な研究業績】
『国境の海』とナショナリズム 日ソ間見布採取協定と高橋達之助 『国際政治』170号(2012年)
『自衛隊の災害派遣の史的展開』 『国際安全保障』41巻2号(2013年)
『冷戦終結後の安全保障理事会と日本』 『国際安全保障』43巻4号(2016年)
『グローバル・ガバナンスと日本』(共著、中央公論新社、2015年)
『戦後日本首相の外交思想』(共著、ミネルヴァ書房、2016年)

趣味・特技

・ 小学校では落語研究会、中学校では卓球部、高校では陸上部、大学時代は演劇サークルに所属していました。

所属

経済学部経済学科

所属学会

日本政治学会、国際安全保障学会、軍事史学会

専門分野

日本政治外交史

担当科目

政治学、国際関係論、行政学、公務員特別演習、基礎能力(新聞を読む)、日本事情C

備考

実務経験の有無及び活用

実務経験あり。外務省総合外交政策局・国際平和協力室調査員。外交実務の一端に触れた経験から、国際政治・日本政治の実情をふまえた演習を行いたいと思います。